

Kac-Paljutkin Quantum Group as a Quantum Subgroup of $SU_{-1}(2)$

お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 理学専攻 数学領域
北川 めぐみ (Megumi KITAGAWA)

概要

Kac-Paljutkin の量子群は、非可換かつ非余可換な 8 次元 Hopf 環として 1960 年代に導入された。本講演では Kac-Paljutkin の量子群が $SU_{-1}(2)$ の部分量子群であることを示す。特に、Hopf 環の graded twist を用いることで Hopf 環の間の準同型写像を導く。また、Kac-Paljutkin の量子群の表現圏が、Klein の 4 元群に由来する丹原・山上によるテンソル圏と圏同値であることを利用する。

1 コンパクト量子群

Banach 環が、 C^* -条件 $\|T^*T\| = \|T\|^2$ をみたすような $*$ -演算 $T \mapsto T^*$ を持つとき、 C^* -環という。作用素環論において重要な定理のひとつである Gelfand–Naimark の定理によると、可換な単位的 C^* -環はあるコンパクト位相空間上の連続関数環と同型になる。このことから、一般の作用素環は“非可換な”コンパクト位相空間上の連続関数環とみなされる。そのような研究対象に“群構造”を与えるのが、Woronowicz によるコンパクト量子群の理論 [4] である。

定義. コンパクト量子群とは、単位的 C^* -環 A と、(余積と呼ばれる) 単位的 $*$ -準同型写像 $\Delta: A \rightarrow A \otimes A$ の組で、以下をみたすもののことである。

1. $(\Delta \otimes \text{id})\Delta = (\text{id} \otimes \Delta)\Delta$,
2. $(A \otimes 1)\Delta(A) = \{ (a \otimes 1)\Delta(b) \mid a, b \in A \}$, $(1 \otimes A)\Delta(A) = \{ (1 \otimes a)\Delta(b) \mid a, b \in A \}$ は $A \otimes A$ で稠密である。

例. 通常のコンパクト群 G に対して、 $C(G)$ を G 上の複素数値連続関数からなる C^* -環とする。このとき、 $*$ -準同型写像 $\Delta: C(G) \rightarrow C(G) \otimes C(G)$ を、可換 C^* -環 $C(G)$ のテンソル積 $C(G) \otimes C(G)$ は $C(G \times G)$ とみなせることに注意して、以下のように定める。

$$\Delta(f)(g, h) = f(gh) \quad (\forall f \in C(G), \forall g, h \in G)$$

すると、 $(C(G), \Delta)$ はコンパクト量子群である。

例. 実数 $q \in [-1, 1]$, $q \neq 0$ に対し、コンパクト量子群 $SU_q(2)$ は以下のように定める。 $C(SU_q(2))$

を, α, γ で生成される普遍的な単位的 C^* -環とする. 生成元 α, γ は以下の条件をみたす.

$$(u_{ij}^q)_{i,j} = \begin{pmatrix} \alpha & -q\gamma^* \\ \gamma & \alpha^* \end{pmatrix} \text{ がユニタリ.}$$

この関係式を書き下すと,

$$\alpha^* \alpha + \gamma^* \gamma = 1, \alpha \alpha^* + q^2 \gamma^* \gamma = 1, \gamma^* \gamma = \gamma \gamma^*, \alpha \gamma = q \gamma \alpha, \alpha \gamma^* = q \gamma^* \alpha$$

となる. 余積 $\Delta: C(SU_q(2)) \rightarrow C(SU_q(2)) \otimes C(SU_q(2))$ は以下の式で定める.

$$\Delta(u_{ij}^q) = \sum_k u_{ik}^q \otimes u_{kj}^q$$

生成元 α, γ を当てはめると,

$$\Delta(\alpha) = \alpha \otimes \alpha - q\gamma^* \otimes \gamma, \Delta(\gamma) = \gamma \otimes \alpha + \alpha^* \otimes \gamma$$

である.

特に $q = 1$ のとき, $C(SU_1(2))$ は $C(SU(2))$ と同型である.

例. 整数 $n \geq 2$ について $F \in GL_n(\mathbb{C})$ を $F\bar{F} = I_n$ をみたす行列とする. ただし \bar{F} は F の各成分の複素共役をとって得られる行列を表す. この F に対し, 自由直交群 O_F^+ は以下のように定める. $C(O_F^+)$ を $u_{ij}, 1 \leq i, j \leq n$ で生成される 普遍的な C^* -環とする. 生成元 u_{ij} は以下の関係をみたす.

$$U = (u_{ij})_{i,j=1}^n \text{ がユニタリ, かつ } U = FU^cF^{-1}$$

ただし $U^c = (u_{ij}^*)_{i,j}$ である. 余積は次の式で定める.

$$\Delta(u_{ij}) = \sum_k u_{ik} \otimes u_{kj}$$

行列 F が単位行列 I_n のとき自由直交群を O_n^+ と表し, これは直交群の定義式から可換性を除いたものとなる.

量子群 $SU_q(2)$ は, この自由直交群の例としてもみることができる. 行列 $F \in GL_2(\mathbb{C})$ を次のようにとればよい.

$$F = \begin{pmatrix} 0 & -\text{sgn}(q)|q|^{\frac{1}{2}} \\ |q|^{-\frac{1}{2}} & 0 \end{pmatrix}.$$

定義. コンパクト量子群 G の, 有限次元ベクトル空間 H への表現とは, 可逆な $U \in B(H) \otimes C(G)$ で

$$(\text{id} \otimes \Delta)(U) = U_{12}U_{13} \in B(H) \otimes C(G) \otimes C(G)$$

をみたすものである. 空間 H が Hilbert 空間かつ U がユニタリ作用素のとき, ユニタリ表現と呼ばれる.

2 Kac-Paljutkin の Hopf 環

Hopf 環 $C(G_{KP})$ は , 非可換かつ非余可換な , 半単純な Hopf 環の最小の例として Kac と Paljutkin によって導入された [2].

定義. Kac-Paljutkin の Hopf 環 とは , 8 次元の単位的 $*$ -環

$$C(G_{KP}) = \mathbb{C} \cdot \epsilon \oplus \mathbb{C} \cdot \alpha \oplus \mathbb{C} \cdot \beta \oplus \mathbb{C} \cdot \gamma \oplus M_2(\mathbb{C}).$$

と余積 Δ の組からなる Hopf $*$ -環である. ここで , $\epsilon, \alpha, \beta, \gamma$ はそれぞれ射影を表す. これらの射影と行列 $x \in M_2(\mathbb{C})$ に対し余積は以下の式で与えられる.

$$\begin{aligned} \Delta(\epsilon) &= \epsilon \otimes \epsilon + \alpha \otimes \alpha + \beta \otimes \beta + \gamma \otimes \gamma + \frac{1}{2} \sum_{1 \leq i, j \leq 2} \epsilon_{ij} \otimes \epsilon_{ij}, \\ \Delta(\alpha) &= \epsilon \otimes \alpha + \alpha \otimes \epsilon + \beta \otimes \gamma + \gamma \otimes \beta \\ &\quad + \frac{1}{2}(\epsilon_{11} \otimes \epsilon_{22} + i\epsilon_{12} \otimes \epsilon_{21} - i\epsilon_{21} \otimes \epsilon_{12} + \epsilon_{22} \otimes \epsilon_{11}), \\ \Delta(\beta) &= \epsilon \otimes \beta + \beta \otimes \epsilon + \alpha \otimes \gamma + \gamma \otimes \alpha \\ &\quad + \frac{1}{2}(\epsilon_{11} \otimes \epsilon_{22} - i\epsilon_{12} \otimes \epsilon_{21} + i\epsilon_{21} \otimes \epsilon_{12} + \epsilon_{22} \otimes \epsilon_{11}), \\ \Delta(\gamma) &= \epsilon \otimes \gamma + \gamma \otimes \epsilon + \alpha \otimes \beta + \beta \otimes \alpha \\ &\quad + \frac{1}{2}(\epsilon_{11} \otimes \epsilon_{11} - \epsilon_{12} \otimes \epsilon_{12} - \epsilon_{21} \otimes \epsilon_{21} + \epsilon_{22} \otimes \epsilon_{22}), \\ \Delta(x) &= \epsilon \otimes x + \alpha \otimes u_\alpha x u_\alpha^* + \beta \otimes u_\beta x u_\beta^* + \gamma \otimes u_\gamma x u_\gamma^* \\ &\quad + x \otimes \epsilon + \bar{u}_\alpha x \bar{u}_\alpha^* \otimes \alpha + \bar{u}_\beta x \bar{u}_\beta^* \otimes \beta + \bar{u}_\gamma x \bar{u}_\gamma^* \otimes \gamma, \end{aligned}$$

ただし , ϵ_{ij} は $M_2(\mathbb{C})$ における行列単位を表し ,

$$u_\alpha = \begin{pmatrix} 0 & i \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad u_\beta = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ i & 0 \end{pmatrix}, \quad u_\gamma = \begin{pmatrix} -1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

である.

定理. Hopf $*$ -環 $C(SU_{-1}(2))$ から $C(G_{KP})$ への全射な単位的 $*$ -準同型写像が存在する.

定理の主張から , $C(G_{KP})$ が定める量子群は $SU_{-1}(2)$ の部分量子群である. 証明の方針として , Hopf $*$ -環の間の準同型写像を構成するために , Hopf 環への群作用から定まる Hopf 環の graded twisting [1] を用いる. また , 量子群 G_{KP} の有限次元ユニタリ表現から定める表現圏 $\text{Rep}(G_{KP})$ は , 丹原・山上のテンソル圏 [3] のうち Klein の 4 元群から構成されるもののひとつと圏同値となる.

参考文献

- [1] Julien Bichon, Sergey Neshveyev, and Makoto Yamashita. Twist gradué des catégories et des groupes quantiques par des actions des groupes. *Ann. Inst. Fourier*, 66(6):2299–2338, 2016.

- [2] G. I. Kac and V. G. Paljutkin. Finite ring groups. *Trudy Moskov. Mat. Obšč.*, 15:224–261, 1966.
- [3] Daisuke Tambara and Shigeru Yamagami. Tensor categories with fusion rules of self-duality for finite abelian groups. *Journal of Algebra*, 209(2):692 – 707, 1998.
- [4] S. L. Woronowicz. Compact matrix pseudogroups. *Commun. Math. Phys.*, 111:613–665, 1987.